

7/19(木) (有)コッコファームが全国農業コンクールでグランプリを受賞

菊池市下河原にある農業生産法人(有)コッコファーム(松岡義博社長)が、第56回全国農業コンクール全国大会で、グランプリの毎日農業大賞を受賞しました。愛知県豊橋市で開かれた大会には、全国から20の代表が集まり、それぞれの活動実績を発表しました。その後の審査で、妻の清子さんと二人三脚で始めた養鶏を、鶏卵・鶏肉の生産、加工、直販の3部門で発展させ、地域交流にも努めていることなどが高く評価され、グランプリに選ばれたものです。喜びの報告に福村市長を訪れた松岡社長は「あの舞台で発表できたことをうれしく思います。この喜びを118人の従業員に伝え、感謝しています。今後は人と自然を結び循環型テーマパーク『コッコパーク(仮称)構想』を3年後には実現できるよう頑張っていきます」と受賞の喜びと抱負を話されました。同法人の今後益々の活躍が期待されます。



8月1日(水)、グランプリ受賞の報告に福村市長を訪れた松岡社長(左)

7/20(金) 旭志小児童が一人暮らしのお年寄りに花配付

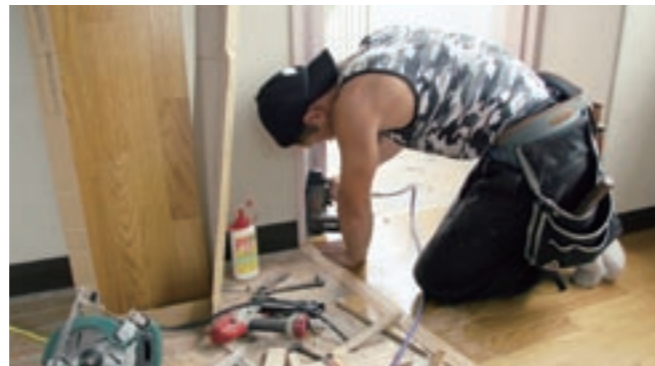
旭志小学校の児童たちが、地元の70歳以上の一人暮らしのお年寄り95人に、プランター植えの「サルビア」を届けました。毎年行われているもので、花は同校の5・6年生が5月から育てました。終了式を終えた児童たちは、自治公民館長さんの指導のもと、「いつまでもお元気で」とのメッセージを携えた花を届け、お年寄りたちは暖かいプレゼントを手に「ありがとうございます」ととても喜んでおられました。



旭志小の児童たちから花のプレゼントを受け取るお年寄り

7/22(日) 一日建築組合奉仕作業

菊池市建築組合(山本勝義組合長)の組合員約40人が、旧菊池市内の小・中学校と保育園に分かれ、ボランティアで修繕作業を行いました。そのひとつ、菊池北小学校では猛暑の中で10人が作業にあたり、日ごろ使っている道具を持ち、校内の床や天井の補修などを慣れた手つきで次々と行いました。学校や保育園の職員からは、たいへん喜ばれ、夏休みを終えた子どもたちにも「奉仕の気持ち」が伝えられました。山本組合長は「地域への恩返しにと毎年行っています。組合のことをもっと知ってもらい、活性化になればと思います」と話されました。この活動は、毎年この時期に同組合が行っています。



猛暑の中、ボランティアで壊れた床部分の修繕をする組合員

7/23(月)~7/30(月) 真夏の球宴北住吉区制覇

恒例の泗水町ナイターソフトボール大会が、菊池市体育協会泗水支部、菊池市ソフトボール協会泗水支部の主催で行われ、北住吉区チームが優勝しました。泗水町内の各行政区から30チームの参加があり、7日間にわたり熱い戦いが繰り広げられました。蒸し暑い会場では、日頃持ちなれないバットで空振りする人や特大のホームランを打ち「ナイスバッティング」の声のなかを、ホームインする人などもいました。上位の結果は次のとおりです。

優勝 北住吉区、2位 永区、
3位 高江出分区、3位 富の原一区



優勝した北住吉区チーム

8/4(土) 菊池夏まつり

菊池夏まつりが市民広場特設ステージをメイン会場として行われ、たくさんの家族連れなどで賑わいました。白龍・子白龍みこしの商店街練り歩きや、よさこい演舞・県警音楽隊などの舞台イベント、花火大会がありました。約150人の有志が担ぐ巨大白龍2頭と、30人以上の小学生たちが担ぐ子白龍1頭とが一緒に商店街を練り歩いた後、市民広場の特設ステージ前で、迫力ある演出が披露されると会場からは大きな歓声が上がりました。また、フィナーレを飾った花火大会では、仕掛け花火と約3,000発の打ち上げ花火が、菊池の夜空を鮮やかに彩り、観客を魅了しました。花火のスポンサーとして寄付や協力をいただいた企業や市民のみなさん、支援いただきありがとうございました。



よさこいソーランを披露する河原小の子どもたち



観客の目の前で広がる迫力満点の花火大会(上) 子白龍を担ぎ、商店街を練り歩く小学生たち(左)



6/23(土) 下河原松島地区で古代米の体験田植え

下河原松島地区で古代米の体験田植えがあり、地元の小学生などが参加しました。米どころ菊池、歴史ある菊池の新たな特産品として、「古代米」の産地が中山間地域を中心に急速に広がっています。古代米は、玄米の色が赤や黒や緑など「有色米」が多く、稲の原種である野生稲の特徴を受け継いでいる米のことです。ビタミンE、ミネラル、繊維質を多く含むなど、お米本来の良さを持っていることから、近年、健康や美容ブーム、自然食ブームに後押しされ需要も大きく伸びています。また、栽培方法も通常のうるち米とほとんど変わりなく、やせ地でもよく育ち、病害虫にも強い特長をもつ作物でもあります。現在、菊池市古代米部会(約30人)を中心に、約15haの古代米が栽培され、古代米の規模としては西日本最大級とされています。生産された古代米は雑穀とブレンドされ、特産品として市内の物産館などを中心に広く販売されています。古代米の食べ方は、白米1合に古代米大さじ1杯を入れて普通に炊くだけで簡単に彩りも鮮やかです。9月上旬からは、下河原松島地区や原伊野地区、鞠智城周辺などで、赤や黒の美しい稲穂の波が山あいの棚田を彩ります。



古代米の田植えを体験する参加者(上) 昨年、赤い稲穂を実らせた下河原松島地区(左)

7/17(火) 花房小で放課後子ども教室開級式

放課後子ども教室の開級式が花房小学校(福田徹郎校長)であり、1・2年生の児童と教師など約30人が参加しました。今年度は試験的に同校の1~3年生26人を対象に行われます。式では福田校長が「皆さんの豊かな心を育てようといわれます。来年の3月まで楽しく頑張ってください」とあいさつ。子どもたちは早速、地域ボランティアによる紙芝居に聞き入っていました。



地域ボランティアによる紙芝居を、真剣に聞く児童たち

■放課後子ども教室

家庭や地域の教育力の低下が指摘されるようになってきた今日、子どもたちを狙った凶悪事件も増加し、大きな社会問題となってきています。そこで、平成19年度より厚生労働省と文部科学省の連携による「放課後子どもプラン」が創設され、放課後児童の安全で健やかな活動場所の確保を図るなど総合的な放課後対策としてスタートしました。地域住民の参加・協力により、地域の伝承遊びや文化・スポーツ活動、地域住民との交流活動などの取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものです。